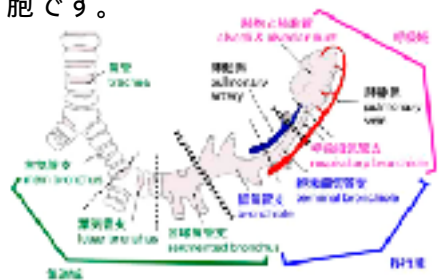


## CTを使った 肺がん検診のはなし

- 9 -

写真とは、X線吸収率の差を白と黒のコントラストの差に置き換えたものだというのを、前号でお話しました。

肺は、肺胞と気管支、肺動脈、肺静脈などによって構成されていますが、その体積のほとんどは肺胞です。



「気道域、移行域(気管支樹と呼吸域(肺胞域))  
(東邦大学医学部ホームページより)

肺胞容積の約90%は空気です。気管支・肺動脈や肺静脈はその周りを無数の肺胞で囲まれています。

気管支の内腔は空気ですが、肺動脈と肺静脈の中は血液で満たされています。ちょうどどの空気(肺胞)の中を、樹の枝のように枝分かれしな



「肺に分布する血管の色分け(白は気管支、青は肺動脈、赤は肺静脈)。(人体の不思議展ホームページより)

がら、肺血管が伸びていく様子を思い浮かべていただくと良いと思います。空気の部分(肺胞)と血液の部分(血管)のX線吸収率には大きな差がありますから、かなり細かい血管の枝まで写し出すことができるのです。この場合、空気(肺胞)のX線吸収は非常に少ないので、それを陰性造影剤と呼びます。

X線の発見後間もなく胸部X線写真が実際の臨床で使われるようになったのは、肺が、空気という陰性造影剤を大量に含む臓器だったからです。気管支の場合は、その壁が空気ではさまれているために、壁の薄い末梢気管支を、胸部単純X線写真に写し出すことはできません。

## Violinist 岩切陽子の音楽ひろば

- たのしく心と体リフレッシュ -

第3回「音楽ひろば」のようすご紹介

新緑がまぶしいほど晴天の5月10日、第3期3回目の「音楽ひろば」が開かれました。

今回のコミュニケーションゲームは、まず、『オノマトペ』という、「パピペポ」音のみを使って会話し思いを相手に伝えるゲームをしました。皆さん始めはテレがあったようですが、先生をお手本にあちこちから「P音」会話が飛び交っていました。

そのあと、3~4の動物チームに分かれ、「鳴き声などで各チームが異なるリズムを声に出して合唱する!? + 体もリズムに合わせて動かす」というゲームをしました。



終始笑い声があふれていました。

言語が通じない時、相手に(発)音と身振りで気持ちを伝えることの難しさ、通じた時のうれしさ楽しさ、そして何より、思いを伝えることの大切さを考えることができました。

午前・午後ともたいへん盛りあがり、リラックスできました。

みなさん、一度「音楽ひろば」へ遊びにいらっしやいませんか。

(次回は6月14日です)

一方、心臓や肝臓などの実質臓器や筋肉などは、内部を走る血管とその周囲組織のX線吸収率にほとんど差がないため、そのままでは、血管を写し出すことができません。

そこで考え出されたのが沃素やバリウムなど原子番号の高い元素を使った陽性造影剤です。

(以下次号)

## 第3期教室・受講生募集中

<開催日>

05.3月~7月 第2火曜日(全5回)

・午前の部：10時半開始

・午後の部：13時半開始

開始15分前にお越しください

6月14日(火)・7月12日(火)

<参加費>

・1回のみ参加 2,500円

体験参加の方、大歓迎です

\*\*\* <豆知識> \*\*\*\*\*

『オノマトペ』という聞き慣れない言葉について調べてみました。フランス語で、onomatopée(初めのeにアクセント・テギュがつきます)と綴り、まさに「オノマトペ」と発音します。

さらに英語では、onomatopoeiaで、語源的には同じラテン語ギリシャ語ですが、発音は第5音節の「ピ」にあります。

それぞれ意味は「擬声語・擬音語。bow-wow, mewのように自然の音をまねて言葉をつくること」。

(注：bow-wowは犬の鳴き声でバウワウ、mewは猫の鳴き声でミュー)

おまけ：擬態語を表す英語は「mimesis(ミシス)・・・佐々木彰の「うんちく講座」

## 座禅洞の庭から

[コデマリ]



4月下旬から5月に咲き出します。白い小さな花が手毬のようにかたままって咲くことから、コデマリと呼ばれるそうです。昔は「すずかけ」と呼ばれていたそうです。

江戸時代からは、「おおてまり」という名の花と区別するために、「こでまり」と呼ばれるようになったそうです。

ばら科・落葉小低木・中国原産  
別名：すずかけ

花ことば：「努力」